opusdei.org

聖ホセマリアの生涯 - 70

聖ヨハネ23世が第二バチカン 公会議を招集したのは、大き な問題が発生したからではな く、教会が世界の中での道徳 的な影響力を著しく失ってし ることへの危機感からでし た。

2025/02/11

過去の記事はこちらから

イエス様はカトリック教会の統治権 を弟子のペトロに与え、それは代々 ローマ教皇によって受け継がれていると、大きな問題が起こ合うと、大きな問題が起し、大きな問題が起した。 教皇は全世界の司教と習慣を招いる会議を開くという会議を開くという会議を出たの会議を出たのなるではなく、教会が世界のではな影響力をものでものではないでものでした。

聖ホセマリアは、公会議の委員になることは辞退したのですが、そののため自ら祈り、人々にも祈りを励まし、会議に参加する高位聖職者の相談を受けることで少しでも更献しようと努めました。またドンでもめ、実際に委員としてがいるといいった。

会議は1962年10月に開幕しましたが、翌年6月に教皇ヨハネ23世が逝去。新教皇パウロ6世が1965年12月の閉幕まで公会議を導きました。公会議の大切な議題の一つが、「すと記した。それなでして「ないでした。これは聖ホセマリア教えたの人が聖性に招かれている」とアがえているより28年からずっと説いてきた受けている。かつては異端の数えを、教会が公会議の場でしまったことを見た創立者の喜いないばかりだったでしょうか。

実はパウロ6世は、ドン・アルバロがローマに初めて来たときからの友人でした。オプス・デイとその創立者の教会への愛をよくご存知であった教皇は、1965年11月エリスという職業訓練学校の落成式を挙行されました。この学校は、ローマ郊外の貧しい地区に学校と小教区を作ろうと考えたヨハネ23世が、オプス・ディにその仕事を頼まれたものでした。

このためには多大の犠牲が必要でしたが、聖ホセマリアはそれを受け入れ、この時期に落成式ができるまでになっていたのです。公会議は途中から深刻な困難が現われ、終了後には信じられないようなひどい混乱が始まります。

尾崎明夫

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/sei-josemaria-70/ (2025/12/15)